

保健体育科学学習指導案

平成27年11月27日（金）5校時

那覇市立小禄中学校

2年4組 男子18人 女子17人 計35人

指導者 砂川龍馬

1 単元名

(3) 傷害の防止 「エ 応急手当」

2 単元の目標

- (1) 傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
- (2) 傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- (3) 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解することができるようにする。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、傷害の防止についての理解を深める学習である。私たちは日常生活の事故や自然災害に巻き込まれて、けがをしたり命を落としたりする危険性がある。傷害の発生要因には様々な要因があり、それらに対する適切な対策や危険を予測することができれば、事故や災害を防いだり、被害を最小限に抑えたりすることができる。また、応急手当は傷害の悪化を防止できることや命を救ったりすることができる。特に心臓突然死は年間6万人、一日あたり約160人が亡くなり、死亡数の何倍もの数で心臓突然死の危険があったことが推察される。その状況に直面したときに、適切な判断の基に命を救う応急手当ができるように学習内容を理解することが重要である。

(2) 生徒観

保健学習に対する感情などの質問では肯定的に回答した生徒の割合は約70%である。保健学習の重要性や価値、期待などの質問に肯定的に回答した生徒の割合は約90%であり、多くの生徒が保健学習に意欲的に取り組んでいる。応急手当の学習は大切であると約90%の生徒が肯定的に回答しているが、応急手当は今の自分の生活に役立つと肯定的に回答した生徒は50%であり、心肺蘇生やAEDについての手順の理解は15%、経験（講習会を含む）はほとんどなかった。学校生活で傷害が発生した場合、ほとんどの生徒は教師に連絡をして、傷病者の側に寄り添ったり、教師が行う応急手当を見たり、指示を受けて手当の協力をするなど、自分から応急手当を行うことはほとんどない。同様に、倒れている人を発見したときの対応についての質問（図1）においても、多くの生徒が近くの大人に助けを求め、自分では手当を行わないことがわかった。

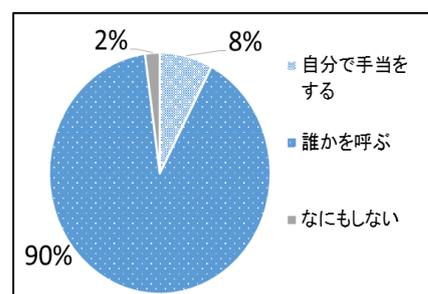


図1 倒れている人を発見した時の対応

(3) 指導観（研究課題との関連）

小学校では、すり傷や鼻出血などの簡単な手当などを学習し、中学校ではこれまでに傷害を防止すること、被害を最小限に抑えることについて学習をしてきた。応急手当の学習では、傷害が発生した場合には応急手当によって傷害の悪化を防止することや生命を救うことを理解できるようにすることが必要である。

生徒の多くは、今、意識がない傷病者に直面したときに命を救う可能性は低い。科学的なデータ等から課題を明確にして学習の意欲を高め、応急手当の意義や手順、意識がない場合の手当についてなど、習得すべき学習内容を理解させる。その上で、事例と前時までに学習した知識を比較して、本時の学習課題の解決の方法について考える学習活動を行う。仲間との学び合いを通して多様な見方や考え方に触れ、話し合う過程において課題に対する見方や考え方を広げたり、深めたりしながらよりよい課題解決の方法を目指す取り組みで言語活動の充実を図る。結果として、その状況に直面したときに、適切な判断の基に命を救う応急手当ができるようになってほしい。

4 単元の評価規準

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全への 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
評価規準	傷害の防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因やそれらによる傷害の防止、応急手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解している。
学習活動に即した評価規準	①応急手当について資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②応急手当について課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①応急手当について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道をたててそれらを説明している。	①応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止できることについて、言ったり、書き出したりしている。 ②応急手当には、心肺蘇生等があることについて言ったり、書き出したりしている。

5 単元の指導と評価計画

傷害の防止 7時間目／全8時間中（応急手当：2時間目／3時間計画）

時	◆ねらい ・学習活動	評価計画			評価方法
		関	思	知	
これまで	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因 交通事故などによる傷害の防止 自然災害による傷害の防止 				
応急手当 1 【前時】	<p>◆応急手当の意義と手順について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前調査の資料等から自分たちの生活を振り返り、応急手当の学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 応急手当の意義や手順について教科書等で確認する。 意識がない場合の手当（心肺蘇生）について教科書等で確認し、ワークシートにまとめる。 	①		① ②	<p>〈関意態-①〉【観察】</p> <p>〈知・理-①〉【ワークシート】</p> <p>〈知・理-②〉【観察・ワークシート】</p>
応急手当 2 【本時】	<p>◆意識がない場合の手当について、学習したことを事例と比較し、関係を見付けるなどして、筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 今までの学習内容を確認する。 意識がない場合の手当について学習したことを事例と比較し、手当での方法について考え、グループで話し合う。 グループで協力しながら応急手当の方法等を発表する。 		①		<p>〈思・判-②〉</p> <p>学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つめたりするなどして、筋道をたててそれらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。</p>
応急手当 3 【次時】	<p>◆応急手当について、課題の解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組み、応急手当には心肺蘇生等があることについて理解することができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 応急手当の順序や心肺蘇生（胸部圧迫）の行い方について課題の解決に向けてグループで話し合う。 応急手当の順序や心肺蘇生（胸部圧迫）行い方を教科書や視聴覚教材で確かめる。 心肺蘇生の実習をグループで行い、話し合ったことをワークシートにまとめ、発表する。 	②		②	<p>〈関意態-②〉【観察】</p> <p>〈知・理-②〉【観察・ワークシート】</p>

6 本時の展開（7時間目／全8時間中）

（1）本時の目標

応急手当について意識がない傷病者の手当の理解を深めるために、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道をたててそれらを説明できる。

（2）展開

時間	学習内容及び学習活動	・教師の手立て ■ 評価等
はじめ（8分）	1 前時を振り返る。 1) 応急手当の意義 2) 救命の連鎖 3) 応急手当の基本 4) 意識がない場合の手当（心肺蘇生） 2 本時のめあてを確認する。	・教師の手立て ■ 評価等 ・前時までのワークシートから応急手当の意義と手順について確認する。 ・意識がない場合の手当（心配蘇生）について、ワークシートや視聴覚教材で手当の手順に沿って「反応の確認」「気道の確保」「心肺蘇生（胸部圧迫、人工呼吸）」「AED」など語句の確認をするなど前時の学習内容を押さえる。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 意識がない場合の手当について、学習したことを事例と比較して考え、筋道をたてて説明する。 </div>	
なか（37分）	3 課題について考える。 <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> できる手当はなかったか？（亡くなった原因について考える） </div> 1) 事例を確認し課題を共有する 2) 個人の考えをワークシートに記入する 3) 班で考えを交流しまとめる 4 班でまとめた考えを発表する。 5 意識がない場合の手当について理解を深める。 1) 死戦期呼吸について教師から説明を聞く 2) 自己にあてはめて考える <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> 今のわたしならどうするか </div>	・意識がない場合の手当について事例を紹介する（別資料参照）。 ・前提として、適切な手当をしていたら生命を救えた可能性があったことを確認する。 ・グループで自分の考えを説明し、他者と考えを交流させる。 ・発表を補足したりして生徒へ理解を促す。 ・「死戦期呼吸」の理解を通して、意識がない場合の手当についての確かな判断ができるようにする。 ・「普段通りの呼吸であるか」の観察が重要であることを助言する。 ・傷病者の観察をして「わからない」場合は、「なし」と同様の判断をすること。その判断が誤りであっても大きな事故にはならないことを理解させる。 ・同じ事例を使って、自己の生活と関連づける。
	<div style="background-color: #003366; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 思 意識がない場合の手当について、学習したことを基に事例の場面にあてはめて、自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道をたてて手当の方法等をワークシートに書き出している。 </div>	
まとめ（5分）	7 本時のまとめをする。	・教師の話の聞いたり、ワークシートを見たりして本時の活動を振り返るよう促す。

(3) 本時の具体的な評価方法

学習活動に即した評価規準 【 思考・判断 ① 】	
	応急手当について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道をたててそれらを説明できる。
具体的な評価方法	本時では、意識がない場合の手当について前時までに学習したことを事例と比較し関係を見つめる場面、自己の生活にあてはめて手当の方法等を考える場面で、他の生徒に説明したり、ワークシートに書き出したりしている内容から、判断していく。 〈「A 十分満足できる」状況にあると判断するポイント〉 ・学習したことを事例と比較し関係を見付けるとき、自己の生活にあてはめて手当の方法等を考えるときに <u>理由を付け加えたり、根拠を挙げたりしながら筋道を立ててそれぞれ説明している。</u> 〈「C 努力を要する」状況と判断した生徒への手立て〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">このような状況は、前時までのワークシート等から見つけることができない、具体的な対策を思いつかないなどが原因として考えられるため、教科書やワークシートの読み取りを補足したり、事例と前時までの学習内容が結びつくよう、個別に説明する。</div>

《 資 料 》

■ 本時の事例 ■

放課後、部活動の練習後に生徒が急に倒れました。呼びかけにも反応はありません。周りに居合わせた先生は、生徒に、養護の先生を呼んでくるよう依頼し、一報を聞いた養護の先生は119番に連絡をして、AEDを持って生徒のもとへ急ぎました。生徒の様子を観察すると、反応はありませんが、苦しそうに呼吸をしています。そのため、その場で観察をして救急隊を待ちました。通報してから8分後、救急隊が到着しました。その後、救急病院に搬送されましたが、残念ながら、生徒は亡くなってしまいました。

■ ワークシート ■ 別添

■ パワーポイント資料 ■ 別添